

New Horizon 第3回 Lessons

Lesson 3-1: be 動詞の疑問文① (I / you / we / they)

ここでは、be 動詞の疑問文について学んでいきます。be 動詞の疑問文は、be 動詞の肯定文をしっかりと作ることができれば非常に簡単。なぜなら、肯定文の be 動詞を文頭に持ってくれば完成となるからです。

【be 動詞の疑問文：基本的な形】

be 動詞 + 主語 + ～ ?

「主語は～ですか」

<例> Are you a student? (あなたは生徒ですか)
Are they English teachers? (彼らは英語の先生ですか)

【be 動詞の疑問文の作り方】

ステップ 1: be 動詞の「肯定文」を作る。

ステップ 2: be 動詞を文頭に持ってきて、最後を ? にする。

<例 1: あなたは生徒ですか>

ステップ 1: be 動詞の肯定文を作る。

→ あなたは生徒です。

You are a student.

ステップ 2: be 動詞を文頭に持ってきて、最後を ? にする。

Are you a student?

<例 2: 彼らは英語の先生ですか>

ステップ 1: be 動詞の肯定文を作る。

→ 彼らは英語の先生です。

They are English teachers.

ステップ 2: be 動詞を文頭に持ってきて、最後を ? にする。

Are they English teachers?

【be 動詞の疑問文：答え方】

答え方は、基本的に Yes/No の2種類。（注意：ここでいう代名詞は、I/you/we/they）

Yes, 代名詞 be 動詞 .

代名詞と be 動詞を短縮させることも可能。

<例> No, I'm not. No, you're not. など

No, 代名詞 be 動詞 not .

are で答える時は、be 動詞と not を短縮させた形を使うのが一般的。

<例> No, you aren't. など (amn't = × (存在しない))

<例 1> Are you a student?

はい → Yes, *I am.

いいえ → No, *I am not. / No, I'm not.

* Are you ~? (あなたは~?) という疑問文では、答える時に I (私は) を使うので注意。この質問をされている状況を想像するのが大事。

<例 2> Are they English teachers?

はい → Yes, they are.

いいえ → No, they aren't. / No, they're not. / No, they are not.

Lesson 3-2: 一般動詞の疑問文 ① (I / you / we / they)

ここで学ぶ一般動詞の疑問文は、基本的に一般動詞の肯定文が理解できていれば、何も問題ないと思いますが、ポイントとなるのは、文頭で使われる Do という単語。こちらは、「する」という意味ではないので要注意です。

【一般動詞の疑問文① (I / you / we / they) : 基本の形】

I
*Do + you + 一般動詞 (+目的語) (+~) ?
we
they

*疑問文の先頭にある Do は「する」という意味の do とは違うので注意。

<例> Do you study English every day? (あなたは毎日英語を勉強するのですか)
Do they drink coffee? (彼らはコーヒーを飲むのですか)

【一般動詞の疑問文①：作り方】

ステップ1：一般動詞の「肯定文」を作る。

ステップ2：文頭に **Do** を足し、最後を **?** にする。

<例1：あなたは毎日英語を勉強するのですか>

ステップ1：一般動詞の「肯定文」を作る。

→ あなたは毎日英語を勉強します。

You study English every day.

ステップ2：文頭に **Do** を足し、最後を **?** にする

Do you study English every day?

<例2：彼らはコーヒーを飲むのですか>

ステップ1：一般動詞の「肯定文」を作る。

→ 彼らはコーヒーを飲みます。

They drink coffee.

ステップ2：文頭に **Do** を足し、最後を **?** にする

Do they drink coffee?

【疑問文の答え方】

答え方は、基本的に Yes / No の2種類。Yes. や No. と一言だけでも大丈夫な場合が多いですが、しっかりと答える場合は、以下のように「代名詞」や「do / don't (do not)」を入れる必要があります。

Yes, 代名詞 do.

No, 代名詞 *don't.

* don't 使うのが一般的だが、do not と分けることも可。

Do~? で聞かれているので、do で答える。be 動詞で答えないように注意。

Q: Do you like coffee?

A: Yes, I am. =×

<例1>

Do you study English every morning?

はい → Yes, *I do.

いいえ → No, *I don't. / No, I do not.

* **Do you ~?** (あなたは~?) という疑問文では、答える時に **I (私は)** を使うので注意。この質問をされている状況を想像するのが大事。

<例2>

Do they drink coffee?

はい → Yes, they do.

いいえ → No, they don't. / No, they do not.

【ポイント！】

Do you know ～?は、個人的に面識がある時に使われる言い方なので注意！

「あなたは大谷翔平選手を知っている？」という日本語文を Do you know Shohei Ohtani? とすると大谷翔平選手と「面識がある（友だちである）」という意味で知っていますか？という意味になります。こういう場合は、Have you heard of Shohei Ohtani?（大谷翔平を聞いたことがありますか？）という表現が使われますので、注意してください！

<参考ウェブサイト> [英語イメージリンク](#) [Hapa Eikaiwa](#)

Lesson 3-3: 代名詞の格

英語の場合、同じ代名詞でも使われる場所（主語・目的語）によって形が変化します。例えば、以下の文。日本語の文では同じ『彼ら』という言葉ですが、英語では使われる単語が異なります。

<例> 彼らは学校に行きます。（彼ら＝主語として使われている）

エミは彼らが好きです。（彼ら＝目的語として使われている）

今回は「主格」「所有格」「目的格」について学んでいくのですが、もうすでに「主格」と「所有格」は練習でも登場しているので、すぐに理解できるでしょう。そのため、ここでのポイントは「目的格」をしっかり理解することです！

1. 主格 （「私は～」「彼は～」など主語になる形）
2. 所有格 （「私の～」「彼の～」のように、誰かの所有を表す形）
3. 目的格 （「私を～」「彼に～」のように、動詞の対象となる形）

【代名詞の格と所有代名詞：リスト】

主格 <～は・～が>	所有格 <～の>	目的格 <～を・～に>
I <私は>	my <私の>	me <私を・私に>
you <あなた（たち）は>	your <あなた（たち）の>	you <あなた（たち）を・あなた（たち）に>
he <彼は>	his <彼の>	him <彼を・彼に>

主格 <～は・～が>	所有格 <～の>	目的格 <～を・～に>
she <彼女は>	her <彼女の>	her <彼女を・彼女に>
we <私たちは>	our <私たちの>	us <私たちを・私たちに>
they <彼(女)らは> <それらは>	their <彼(女)らの> <それらの>	them <彼(女)らを・彼(女)らに> <それらを・それらに>
it <それは>	its <そのの>	it <それを・それに>

【代名詞以外の場合】

Jim <ジムは>	Jim's <ジムの>	Jim <ジムを・ジムに>
*my mother <母は>	my mother's <母の>	my mother <母を・母に>

*「父 / 母」など家族のことをいう場合、「誰の父」「誰の母」など限定されている際は、基本的に所有格をつける。同様に「腕 / 足」といった体の一部や「宿題」をいう場合も「誰の体の一部」「誰の宿題」が限定されている場合は、所有格をつける。

【使い方】

1. 主格 = 「私は」「あなたが」など、文の主語になる形。

<例> 私は、野球をします。 = I play baseball.
 彼らは、私の生徒たちです。 = They are my students.

2. 所有格 = 「私の」「あなたの」など、誰かの所有を表す形。

<例> 私は、私の教科書を持っていません。 = I don't have my textbook.
彼の車(たち)は、新しいです。 = His cars are new.

3. 目的格 = 「私を」「あなたに」など動詞の対象となる形。

<例> 私は彼を教えています。 = I teach him. <「教える(動詞)」の対象 → 彼>
 私たちはそれを毎日します。 = We do it every day. <「する(動詞)」の対象 → それ>

【ポイント!】

自己紹介で使われる Call me ~. が Call I ~. にならない理由

自己紹介で「私を ~と呼んで(ください)」という表現が、Call me ~. となり Call I ~. ではない理由は「私は」ではなく「私を」となっているため、目的格が使われるからです。

Lesson 3-4: be 動詞の否定文① (I / you / we / they)

be 動詞の否定文の作り方は、be 動詞の肯定文が作ることができれば非常に簡単。なぜなら、be 動詞の肯定文を作り、be 動詞の後に not を足してあげれば完成だからです。

【be 動詞の否定文：基本的な形】

主語 + be 動詞 + not + ○○.

「主語は○○ではありません」

(are not は、aren't と短縮させることができる)

<例> I **am not** a teacher. (私は先生では**ありません**) <I **amn't** a teacher. = ×>
We are **not (aren't)** students. (私たちは、生徒では**ありません**)

【be 動詞の否定文の作り方】

ステップ 1 : be 動詞の「**肯定文**」を作る。

ステップ 2 : be 動詞の後に **not** を足す。(be 動詞と not を短縮させることも可)

<例 1 : 私は先生ではありません>

ステップ 1 : be 動詞の肯定文を作る。

→ 私は先生です。

_____ I am a teacher.

ステップ 2 : be 動詞の後に not を足す。

_____ I am **not** a teacher. (I'm **not** a teacher. も可)

<例 2 : 私たちは生徒ではありません>

ステップ 1 : be 動詞の肯定文を作る。

→ 私たちは生徒です。

_____ We are students.

ステップ 2. be 動詞の後に not を足す。(be 動詞と not を短縮させることも可)

_____ We are **not** students. (We **aren't** students. / We're **not** students も可)

Lesson 3-5: 一般動詞の否定文① (I / you / we / they)

一般動詞の否定文は、一般動詞の肯定文を作ることができれば、簡単に作れます。なぜなら、一般動詞の肯定文を作り、一般動詞の前に do not あるいは don't を入れれば完成だからです。

【一般動詞の否定文 (現在形①) < I / you / we / they > : 基本の形】

主語 + do not (*don't) + 一般動詞 (+目的語) (+～) .

* don't は、do not を短縮した形。

<例> I do not (don't) like soccer. (私はサッカーが好きではないです)

You do not (don't) teach them (あなたは彼らを指導しません)

They do not (don't) live in Japan. (彼らは日本には住んでいません)

【一般動詞の否定文① : 作り方】

ステップ1 : 一般動詞の「肯定文」を作る。

ステップ2 : 主語と一般動詞の間に do not (または、don't) を入れる。

<例1 : 私はサッカーが好きではないです>

ステップ1 : 一般動詞の「肯定文」を作る。

→ 私はサッカーが好きです。

I like soccer. _____

ステップ2 : 主語と一般動詞の間に do not (または、don't) を入れる。

I do not (don't) like soccer. _____

<例2 : 彼らは日本には住んでいません>

ステップ1 : 一般動詞の「肯定文」を作る。

→ 彼らは日本に住んでいます。

They live in Japan. _____

ステップ2 : 主語と一般動詞の間に do not (または、don't) を入れる。

They do not (don't) live in Japan. _____

Lesson 3-6: 様々なフレーズ①

英語では、2語以上の単語から成り立つフレーズが多く存在します。今回は、そのようなフレーズについて学んでいきます。

【今回学ぶフレーズ】

(1) (文の最初において) So(,) = (言葉の切り出しとして) では / そうすると / それで

<例> So, are you hungry? <それで、あなたはお腹が空いていますか>

(2) (文の最初において) Well(,) = まあ / そうだね / えっと

<例> Well, I'm not hungry. <そうだね、お腹は空いていないかな>

(3) just a little = ほんの少し / 少しだけ

<例> Are you tired? — Just a little.
<あなたは疲れていますか。 — 少しだけ>

〔補足説明〕

a little は「少し」という意味。文頭でよく使われる。just a little だけでなく、(just) a little bit という表現もある。

<例> Do you play soccer? — Yes, a little bit.
<あなたはサッカーをしますか。 — はい、少しだけ>

(4) How about ~? = ~ (について) は、どうですか

<例> A: I like soccer. B: How about baseball?
<A: 私はサッカーが好きです。 B: 野球はどうですか?>

〔補足説明〕

「about ~ = ~について (前置詞)」 「how ~? = ~は、どうですか」という意味。「彼らはどうですか」のように“How about 代名詞?”となる場合、代名詞は目的格が使われる。

<例> I like basketball. How about you? <私はバスケが好きです。あなたはどうですか?>

(5) Me(,) too. = 私も

<例> I am hungry. — Me, too.
<私は空腹です。 — 私もです>